

## 2023 科目別時間表

精神保健福祉士養成科

教育科目	指定時間数	1年		合計
		前期	後期	
人体の構造と機能及び疾病	30	30		30
心理学理論と心理的支援	30	30		30
社会理論と社会システム	30		30	30
現代社会と福祉	60	30	30	60
地域福祉の理論と方法	60	30	30	60
社会保障	60	30	30	60
低所得者に対する支援と生活保護制度	30	30		30
福祉行財政と福祉計画	30	30		30
保健医療サービス	30		30	30
権利擁護と成年後見制度	30		30	30
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	30	30		30
精神疾患とその治療	60	30	30	60
精神保健の課題と支援	60	30	30	60
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	30	30		30
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	30		30	30
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	120	60	60	120
精神保健福祉に関する制度とサービス	60	30	30	60
精神障害者の生活支援システム	30		30	30
精神保健福祉援助演習（基礎）	30	30		30
精神保健福祉援助演習（専門）	60	30	30	60
精神保健福祉援助実習指導	90	60	30	90
精神保健福祉援助実習	210	90	120	210
合 計	1,200	630	570	1,200

特別科目	時間数	1年	合計
		通年	
HR 活動	10	10	10
国家試験対策	40	40	40
進路演習	16	16	16
合 計	66	66	66

総訓練時間 1266時間 = 教育科目 1200時間 + 特別科目 66時間

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人体の構造と機能及び疾病	授業の種類 ( 講義・演習・実習 )	授業担当者 原 寿美子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年 前期 必須
[教員実務経験] 原 寿美子 看護師国家資格取得後、医療機関における実務経験あり		
[授業の目的・ねらい] 1. 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 2. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。 3. リハビリテーションの概要について理解する  [授業全体の内容と概要] 人間の身体の仕組みやサービス利用者の対象となりやすい病気やけが、そして、その回復過程とリハビリテーションの関わりについて学び、その人らしい生活を考える。  [授業修了時の達成課題 (到達目標)] サービスを必要とする利用者の心身の状態を理解し、その人らしい生活が継続できるような支援を利用者とともに考えるための医学的基礎知識の修得をめざす。		
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 人体部位の名称 2. 各器官等の構造と機能 3. 身体の成長・発達 4. 精神の成長・発達 5. 老化 6. 健康の概念 7. 疾病の概要 8. 障害の概要 9. 精神疾患の診断・統計マニュアルの概要 10. リハビリテーションの概要 11. 国際障害分類から国際生活機能分類 12. 心身機能と身体構造、活動、参加の概念 13. 環境因子と個人因子の概念 14. 健康状態と生活機能低下の概念 15. 今日の医療の課題		
[使用テキスト・参考文献] 『人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 心理学理論と心理的支援	授業の種類 ( 講義・演習・実習 )	授業担当者 三宅 舞
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年 前期 必須
[教員実務経験] 三宅 舞 臨床心理士資格取得後、公立学校等におけるスクールカウンセラーとしての実務経験あり		
[授業の目的・ねらい] 1. 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。 2. 人の成長、発達と心理との関係について理解する。 3. 日常生活と心の健康の関係について理解する。 4. 心理的支援の方法と実際について理解する。  [授業全体の内容と概要] 人の心の動きやとらえ方について基礎的な知識の理解を図ると共に、対象者の理解や他の専門職との連携で不可欠となる利用者理解の姿勢を育む。  [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 対人理解をどのように進めるのかという視点が重要であり、その基盤となる心理学諸理論および、心理的支援法についての知識の習得を目指す。		
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 心と脳 2. 情動・情緒 3. 欲求・動機づけと行動 4. 感覚・知覚・認知 5. 学習・記憶・思考 6. 知能・創造性 7. 人格・性格 8. 集団 9. 適応 10. 人と環境 11. 発達の概念 12. ストレッサー 13. 心理検査 14. 心理療法の概要 15. カウンセリングとスクールソーシャルワーク		
[使用テキスト・参考文献] 『心理学理論と心理的支援』中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会理論と社会システム	授業の種類 ( 講義・演習・実習 )	授業担当者 鈴木 誠志・畠山 護三・一藤 浩隆 吉崎 一
授業の回数 15回	時間数 ( ) 30時間	配当学年・時期 1年 後期 必須
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会理論による現代社会の捉え方を理解する。</li> <li>2. 生活について理解する。</li> <li>3. 人と社会の関係について理解する。</li> <li>4. 社会問題について理解する。</li> </ol> <p>[授業全体の内容と概要]</p> <p>対人援助職は、利用者理解もさることながら、その周辺の社会の動きについても理解が求められる。本講では利用者は当然のことながら、援助者をも含む社会がどのように成り立っているのかについて、科学的に見ることのできる視点を育む。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>人の生活する社会環境、社会の仕組みや文化、生活様式に目が向けられる精神保健福祉士を目指す。</p>		
<p>[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族</li> <li>2. ライフステージ</li> <li>3. 生活様式</li> <li>4. 生活時間</li> <li>5. 人口</li> <li>6. 地域</li> <li>7. 社会システム</li> <li>8. 社会集団及び組織</li> <li>9. 社会変動</li> <li>10. 社会関係と社会的孤立</li> <li>11. 社会的行為</li> <li>12. 社会的役割</li> <li>13. 社会的ジレンマ</li> <li>14. 社会問題の捉え方</li> <li>15. 具体的な社会問題</li> </ol>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> 『社会理論と社会システム』中央法規出版	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> 授業時間の80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 現代社会と福祉	授業の種類 ( 講義・演習・実習 )	授業担当者 畠山 護三・畠山 京子		
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 1年 前期・後期 必須		
<p>【教員実務経験】 畠山 護三 福祉事務所, 保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得</p>				
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関連について理解する。</li> <li>2. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。</li> <li>3. 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について理解する。</li> <li>4. 相談援助活動と福祉政策の関係について理解する。</li> </ol> <p>【授業全体の内容と概要】 現代社会において、昨今、なぜ「福祉」が叫ばれるようになったのかを論理的に考える。そのためには、歴史や先人たちの取り組み、社会の価値観の変遷を理解しておくことが不可欠である。ここでは、先人達が歩んできた社会とそこから生まれた理論に触れながら現代社会とその関連政策の動向を見つめなおす。 この作業を通して、今後の課題を検討する。</p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】 先人たちの実践やそこから生まれた理論は、暗記のためだけにあるのではない。現代社会において、何が課題なのか、その課題を解決するために何が必要なのかについて考える。</p>				
<p>【授業の日程と各テーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困と福祉政策</li> <li>2. 失業と福祉政策</li> <li>3. 要援護者と福祉政策</li> <li>4. 偏見や差別、社会的排除と福祉政策</li> <li>5. 福祉政策と住宅政策</li> <li>6. 福祉政策と教育政策</li> <li>7. 福祉政策と労働政策</li> <li>8. 福祉政策における政府の役割</li> <li>9. 福祉政策における市場の役割</li> <li>10. 福祉政策における国民の役割</li> <li>11. 福祉供給部門</li> <li>12. 福祉供給過程</li> <li>13. 福祉利用過程</li> <li>14. 現代福祉の課題①</li> <li>15. 現代福祉の課題②</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; border: none;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 前近代社会と福祉 ①</li> <li>17. 前近代社会と福祉 ②</li> <li>18. 近代社会と福祉 ①</li> <li>19. 近代社会と福祉 ②</li> <li>20. 現代社会と福祉 ①</li> <li>21. 現代社会と福祉 ②</li> <li>22. 福祉政策における需要</li> <li>23. 福祉政策におけるニーズ</li> <li>24. 福祉政策における資源</li> <li>25. 福祉制度の概念と理念①</li> <li>26. 福祉政策の概念と理念②</li> <li>27. 福祉制度と福祉政策の関係</li> <li>28. 福祉政策における需要</li> <li>29. 福祉政策におけるニーズ</li> <li>30. 相談援助活動と福祉政策の関係</li> </ol> </td> </tr> </table>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困と福祉政策</li> <li>2. 失業と福祉政策</li> <li>3. 要援護者と福祉政策</li> <li>4. 偏見や差別、社会的排除と福祉政策</li> <li>5. 福祉政策と住宅政策</li> <li>6. 福祉政策と教育政策</li> <li>7. 福祉政策と労働政策</li> <li>8. 福祉政策における政府の役割</li> <li>9. 福祉政策における市場の役割</li> <li>10. 福祉政策における国民の役割</li> <li>11. 福祉供給部門</li> <li>12. 福祉供給過程</li> <li>13. 福祉利用過程</li> <li>14. 現代福祉の課題①</li> <li>15. 現代福祉の課題②</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 前近代社会と福祉 ①</li> <li>17. 前近代社会と福祉 ②</li> <li>18. 近代社会と福祉 ①</li> <li>19. 近代社会と福祉 ②</li> <li>20. 現代社会と福祉 ①</li> <li>21. 現代社会と福祉 ②</li> <li>22. 福祉政策における需要</li> <li>23. 福祉政策におけるニーズ</li> <li>24. 福祉政策における資源</li> <li>25. 福祉制度の概念と理念①</li> <li>26. 福祉政策の概念と理念②</li> <li>27. 福祉制度と福祉政策の関係</li> <li>28. 福祉政策における需要</li> <li>29. 福祉政策におけるニーズ</li> <li>30. 相談援助活動と福祉政策の関係</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困と福祉政策</li> <li>2. 失業と福祉政策</li> <li>3. 要援護者と福祉政策</li> <li>4. 偏見や差別、社会的排除と福祉政策</li> <li>5. 福祉政策と住宅政策</li> <li>6. 福祉政策と教育政策</li> <li>7. 福祉政策と労働政策</li> <li>8. 福祉政策における政府の役割</li> <li>9. 福祉政策における市場の役割</li> <li>10. 福祉政策における国民の役割</li> <li>11. 福祉供給部門</li> <li>12. 福祉供給過程</li> <li>13. 福祉利用過程</li> <li>14. 現代福祉の課題①</li> <li>15. 現代福祉の課題②</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 前近代社会と福祉 ①</li> <li>17. 前近代社会と福祉 ②</li> <li>18. 近代社会と福祉 ①</li> <li>19. 近代社会と福祉 ②</li> <li>20. 現代社会と福祉 ①</li> <li>21. 現代社会と福祉 ②</li> <li>22. 福祉政策における需要</li> <li>23. 福祉政策におけるニーズ</li> <li>24. 福祉政策における資源</li> <li>25. 福祉制度の概念と理念①</li> <li>26. 福祉政策の概念と理念②</li> <li>27. 福祉制度と福祉政策の関係</li> <li>28. 福祉政策における需要</li> <li>29. 福祉政策におけるニーズ</li> <li>30. 相談援助活動と福祉政策の関係</li> </ol>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『現代社会と福祉』中央法規出版</p>	<p>【単位認定の方法及び基準】 授業時間の80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。</p>			

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 地域福祉の理論と方法	授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者 米田 耕・今井 裕介・栗原 奨 畠山 護三・中濱 恵梨加
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 1年 前期・後期 必須
[教員実務経験] 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得		
[授業の目的・ねらい] 1. 地域福祉の基本的な考え方(人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。)について理解する。 2. 地域福祉の主体と対象について理解する。 3. 地域福祉に係る組織、団体、及び専門職の役割と実際について理解する。 4. 地域福祉におけるネットワーク(多職種・多機関との連携を含む)の意義と方法及びその実際について理解する。 5. 地域福祉の推進方法(ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法とサービスの評価方法を含む)について理解する。 [授業全体の内容と概要] 住み慣れた地域での暮らしを支えるために、地域の成立過程や特徴の捉え方を理解する。そのうえで、地域での暮らしを支える人や機関、法制度について理解を図る。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 暮らしを支える地域の役割や意義について理解する姿勢を育み、住み慣れた地域を支えるために何が必要かについて考える姿勢を習得する。		
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 地域福祉の概念 2. 地域福祉の定義 3. 地域福祉の範囲 4. 地域福祉の理念としての人権尊重 5. 地域福祉の理念としての権利擁護 6. 自立支援 7. 地域生活支援 8. 地域福祉におけるアウトリーチ 9. 社会福祉法と地域福祉 10. 地方公共団体と地域福祉 11. 社会福祉協議会と地域福祉 12. 社会福祉法人と地域福祉 13. 民生委員・児童委員 14. 共同基金 15. 町内会・自治会 16. ボランティア活動の意義 17. ボランティア活動の実際 18. 専門職や地域住民の役割と実際 19. ネットワークの意義と方法 20. ネットワークの方法 21. 社会資源の概要 22. 社会資源の活用・調整・開発 23. 各省庁の優遇措置 24. 福祉のまちづくりとソーシャルアクション 25. ソーシャルサポートネットワーク 26. 福祉ニーズの把握方法 27. 地域トータルケアシステム 28. 福祉サービスの評価 29. 諸外国の動向 ① 30. 諸外国の動向 ②		
[使用テキスト・参考文献] 『地域福祉の理論と方法』中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 授業時間の80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会保障	授業の種類 ( 講義・演習・実習 )	授業担当者 畠山 護三		
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 1年 前期・後期 必須		
<p>[教員実務経験]</p> <p>畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得</p>				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1. 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む）について理解する。                  2. 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。                  3. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。                  4. 社会保障制度の体系と概要について理解する。                  5. 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。                  6. 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。</p> <p>[授業全体の内容と概要]</p> <p>要援護者の安心した暮らしを支えるためには対人援助職として年金、医療をはじめとする社会保障制度についての理解が不可欠である。この講座では、要援護者が安心して生活を営むための社会保障について考える姿勢を育む。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>福祉専門職として、要援護者の視点に立って活用可能な社会保障制度を提案できる力の習得を目指す。</p>				
<p>[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                     1. 人口動態の変化                      2. 労働環境の変化                      3. 社会保障の理念                      4. 社会保障の役割と意義                      5. 社会保障の対象                      6. 社会保障の財源                      7. 社会保障給付費                      8. 国民負担率                      9. 社会保険の概念と範囲                      10. 年金保険制度の概要                      11. 医療保険制度の概要                      12. 介護保険制度の概要                      13. 雇用保険制度の概要                      14. 労災保険制度の概要                      15. 社会保障制度の発達                 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                     16. 国民年金の具体的内容                      17. 厚生年金の具体的内容                      18. 各種共済組合の年金                      19. 国民健康保険                      20. 健康保険                      21. 各種共済組合の医療保険                      22. 高齢者医療制度の概要                      23. 社会福祉制度の概要                      24. 生活保護制度の概要                      25. 民間年金保険                      26. 民間医療保険                      27. 社会福祉制度                      28. 諸外国の社会保障 ①                      29. 諸外国の社会保障 ②                      30. 社会保障の今日的課題                 </td> </tr> </table>			1. 人口動態の変化 2. 労働環境の変化 3. 社会保障の理念 4. 社会保障の役割と意義 5. 社会保障の対象 6. 社会保障の財源 7. 社会保障給付費 8. 国民負担率 9. 社会保険の概念と範囲 10. 年金保険制度の概要 11. 医療保険制度の概要 12. 介護保険制度の概要 13. 雇用保険制度の概要 14. 労災保険制度の概要 15. 社会保障制度の発達	16. 国民年金の具体的内容 17. 厚生年金の具体的内容 18. 各種共済組合の年金 19. 国民健康保険 20. 健康保険 21. 各種共済組合の医療保険 22. 高齢者医療制度の概要 23. 社会福祉制度の概要 24. 生活保護制度の概要 25. 民間年金保険 26. 民間医療保険 27. 社会福祉制度 28. 諸外国の社会保障 ① 29. 諸外国の社会保障 ② 30. 社会保障の今日的課題
1. 人口動態の変化 2. 労働環境の変化 3. 社会保障の理念 4. 社会保障の役割と意義 5. 社会保障の対象 6. 社会保障の財源 7. 社会保障給付費 8. 国民負担率 9. 社会保険の概念と範囲 10. 年金保険制度の概要 11. 医療保険制度の概要 12. 介護保険制度の概要 13. 雇用保険制度の概要 14. 労災保険制度の概要 15. 社会保障制度の発達	16. 国民年金の具体的内容 17. 厚生年金の具体的内容 18. 各種共済組合の年金 19. 国民健康保険 20. 健康保険 21. 各種共済組合の医療保険 22. 高齢者医療制度の概要 23. 社会福祉制度の概要 24. 生活保護制度の概要 25. 民間年金保険 26. 民間医療保険 27. 社会福祉制度 28. 諸外国の社会保障 ① 29. 諸外国の社会保障 ② 30. 社会保障の今日的課題			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『社会保障』中央法規出版</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業時間の80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。</p>			

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 低所得者に対する支援と 生活保護制度	授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者 栗原 奨・今井 裕介・米田 耕 畠山 護三・中濱 恵梨加
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年 前期 必須
[教員実務経験] 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得		
[授業の目的・ねらい] 1. 低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。 2. 生活保護制度について理解する。 3. 自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。 4. 生活保護制度に係る他の法制度について理解する。  [授業全体の内容と概要] 日本国憲法第 25 条には、国民の生存権が記されている。この規定を実現すべく最後の拠り所に生活保護制度がある。低所得者の自立に向けた取り組みの在り方、生きる喜びについて具体的な実例をもとに考える力を育む。  [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 最低限度の生活が具体的に何を指すのか、自立生活とは具体的に何を指すのかについて考える姿勢を育むことを目指す。		
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 低所得者層の生活実態と社会情勢 2. 生活保護制度の概要 3. 生活保護制度における組織、団体の役割 4. 生活保護制度における組織及び団体の役割と実際 5. 生活保護制度における専門職の役割と実際 6. 生活保護制度における他職種連携、ネットワーキングと実際 7. 福祉事務所の組織体系 8. 福祉事務所の活動 9. 自立支援プログラムの意義 10. 自立支援プログラムの実際 11. 低所得者対策 12. 低所得者に対する住宅施策 13. ホームレス対策 14. 生存権をめぐる訴訟 15. 低所得者対策の課題		
[使用テキスト・参考文献] 『低所得者に対する支援と生活保護制度』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 福祉行財政と福祉計画	授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者 栗原 奨・今井 裕介・米田 耕 畠山 護三・中濱 恵梨加
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年 前期 必須
[教員実務経験] 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得		
[授業の目的・ねらい] 1. 福祉の行財政について理解する。 2. 福祉計画の意義や目的、方法、留意点などについて理解する。  [授業全体の内容と概要] 福祉分野における多様なサービス供給主体が叫ばれるなか、福祉分野においては、行政とのかかわりや公費負担は欠かすことができない。本講では、サービスを支えるため、国・地方公共団体の財源を効果的に運用するための行政や各団体の役割等について理解をする。  [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 福祉サービスの実施主体としての国や都道府県・市町村の組織について理解し、円滑なサービス提供が可能となる知識や技術・態度を育む。		
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 福祉と制度・福祉法制度の展開 2. 福祉計画の概要 3. 福祉行政の骨格 4. 社会福祉と法制度・福祉行政の組織 5. 福祉財政 ①財政と社会福祉・社会保障関係費の動向 6. 福祉財政 ②地方自治体の財政・民生費の動向 7. 福祉行政の組織・団体と専門職の役割 ①相談課程・相談体制 8. 福祉行政の組織・団体と専門職の役割 ②専門諸機関・地域の相談システム 9. 福祉行政の組織・団体と専門職の役割 ③専門職 10. 福祉計画の目的と意義 ①福祉援助の現場から福祉計画 11. 福祉計画の目的と意義 ②計画のサイクルと福祉援助の現場 12. 福祉計画の理論と技法 ①基本的視点・過程と留意点・ニーズ把握 13. 福祉計画の理論と技法 ②福祉計画の評価・住民参加 14. 福祉計画の実際 ①事例研究・老人福祉計画・介護保険事業計画 15. 福祉計画の実際 ②障害者計画・障害福祉計画・地域福祉計画		
[使用テキスト・参考文献] 『福祉行財政と福祉計画』中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 保健医療サービス	授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者 米田 耕・今井 裕介・栗原 奨 畠山 護三・中濱 恵梨加
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年 後期 必須
[教員実務経験] 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得		
[授業の目的・ねらい] 1. 医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）の概要について理解する。 2. 保健医療サービスの概要と保健医療サービスにおける他職種協働について理解する。  [授業全体の内容と概要] 対人援助職として、医療保険制度について理解しておくことは、医療機関における相談員に不可欠な要素である。また、支援を必要とする人々の多くが医療とのかかわりが不可欠な生活を余儀なくされている。従って、利用者の生活を考えるに際して、医療を抜きには考えられない。しかし、それが生活を脅かす要因ともなっている。従って、対人援助職には、利用者の生活を構成する医療の内容やそれにかかわる医療系専門職に関する基礎的な理解が不可欠となる。  [授業修了時の達成課題（到達目標）] 疾病を抱えながら生活を営む利用者が安心して生活を営むことができる生活を提案できる対人援助職に必要な保健医療の知識を育む。		
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 医療保険制度の概要 2. 保健医療サービスの整備・拡充の歴史 3. 医療施設の基準・機能・類型 4. 診療報酬による医療施設の基準・機能・類型 5. 医療ソーシャルワークの歴史と業務 6. 保健医療サービスにおける医師の役割 7. 保健医療サービスにおける保健師、看護師の役割 8. 保健医療サービスにおけるリハビリスタッフの役割 9. 医療ソーシャルワークの業務指針 10. 保健医療サービス関係者との連携 11. 医療保険制度と診療報酬制度の概要 12. 介護保険制度と介護報酬制度の概要 13. 自立支援医療、公費負担医療制度の概要 14. インフォームドコンセントの意義と実際 15. 保健医療サービスの連携の理論と実践		
[使用テキスト・参考文献] 『保健医療サービス』中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 権利擁護と成年後見制度	授業の種類 （ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 ）	授業担当者 檜垣 宏太・今井 裕介 米田 耕・栗原 奨 畠山 護三・中濱 恵梨加
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年 後期 必須
[教員実務経験] 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得		
[授業の目的・ねらい] 1. 相談援助活動における権利擁護の観点から、成年後見制度の概要（後見人の役割を含む）について理解する。 2. 成年後見制度の実際について理解する。 3. 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 [授業全体の内容と概要] 認知症や精神疾患をもつ要支援者が安心して生活を営んでいくために、2000年から成年後見制度と日常生活支援事業が発足した。それが、どのような内容なのかについて利用する側の視点にたつて理解するように心がける。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 利用者の視点にたつて成年後見制度の概要とその課題について理解できるか。利用者が成年後見制度を利用できるように福祉職としての役割を果たすための知識と技術を育む。		
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 相談援助活動と法のかかわり 2. 成年後見制度 3. 成年後見制度利用支援事業 4. 日常生活自立支援事業 5. 権利擁護にかかわる組織と団体 ①行政機関 6. 権利擁護にかかわる組織と団体 ②司法機関 7. 権利擁護にかかわる専門職の役割 8. 成年後見活動の実際 9. 権利擁護活動の実際 10. 福祉関連法の理解 11. 民法等の理解 12. 行政法の理解 13. 虐待と法律 14. 少年非行への対応 15. 法制度の動向と課題		
[使用テキスト・参考文献] 『権利擁護と成年後見制度』中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 授業時間の80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	授業の種類 （ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・演習・実習 ）	授業担当者 今井 裕介・栗原 奨・米田 耕 畠山 護三・中濱 恵梨加
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年 前期 必須
[教員実務経験] 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得		
[授業の目的・ねらい] 1. 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉、介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解する。 2. 障害者福祉制度の発展過程について理解する。 3. 相談援助活動に必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。  [授業全体の内容の概要] 障害者を取り巻く歴史的変遷を踏まえ、現状、動向、課題を学ぶ。  [授業修了時の到達課題（到達目標）] 障害者の置かれている実状を理解し、その支援に必要な福祉サービスについての知識を習得する。		
[授業の日程と・各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 障害者の生活実態 2. 障害者に関する法体系 概観 3. 障害者総合支援法 ①理念・考え方 4. 障害者総合支援法 ②自立支援給付・支給決定プロセス 5. 障害者総合支援法 ③自立支援医療費・補装具 6. 障害者総合支援法 ④地域生活支援事業・障害福祉計画 7. 障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際 8. 他職種連携、ネットワークキング 9. 相談事業所の役割と実際 10. 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、障害者基本法 11. 精神保健福祉法 12. 医療観察法 13. 障害者虐待防止法 14. 高齢者、障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律 15. 障害者の雇用の促進等に関する法律		
[使用テキスト・参考文献] 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中 央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 精神疾患とその治療	授業の種類 ( 講義・演習・実習 )	授業担当者 菊本 修		
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 1年 前期・後期 必須		
[教員実務経験] 菊本 修 医師国家資格取得後、精神科における医師の実務経験あり				
[授業の目的・ねらい] 1. 代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。 2. 精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解する。 3. 精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。 4. 精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。  [授業全体の内容の概要] 代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援等を学ぶ。  [授業修了時の到達課題 (到達目標)] 精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士の担うべき役割を理解する。				
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px;">                             1. 精神医学、医療の歴史と現状                              2. 精神現象の生物学的基礎                              3. こころの理解                              4. 精神障害の概念                              5. 精神疾患の成因と分類                              6. 精神症状と状態像                              7. 診断の手順と方法                              8. 心理的検査と身体的検査                              9. 代表的な精神疾患 ①器質性精神病                              10. 代表的な精神疾患 ②精神作用物質による精神及び行動の障害                              11. 代表的な精神疾患 ③統合失調症                              12. 代表的な精神疾患 ④気分障害                              13. 代表的な精神疾患 ⑤神経症障害                              14. 代表的な精神疾患 ⑥パーソナリティ障害                              15. 代表的な精神疾患 ⑦精神遅滞・広汎性発達障害                         </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px;">                             16. 代表的な精神疾患 ⑧多動性障害・行動障害                              17. 精神疾患の治療 ①精神科薬物療法                              18. 精神疾患の治療 ②電気けいれん療法など                              19. 精神疾患の治療 ③精神療法                              20. 精神疾患の治療 ④精神科リハビリテーション                              21. 精神疾患の治療 ⑤環境・社会療法                              22. 疾病構造の変化                              23. 外来診療・在宅診療                              24. 入院療法                              25. 医療観察法対象者の支援                              26. 精神科治療と入院形態                              27. 隔離、拘束のあり方                              28. 移送制度による入院                              29. 再発予防のための支援                              30. 退院促進のための支援                         </td> </tr> </table>			1. 精神医学、医療の歴史と現状 2. 精神現象の生物学的基礎 3. こころの理解 4. 精神障害の概念 5. 精神疾患の成因と分類 6. 精神症状と状態像 7. 診断の手順と方法 8. 心理的検査と身体的検査 9. 代表的な精神疾患 ①器質性精神病 10. 代表的な精神疾患 ②精神作用物質による精神及び行動の障害 11. 代表的な精神疾患 ③統合失調症 12. 代表的な精神疾患 ④気分障害 13. 代表的な精神疾患 ⑤神経症障害 14. 代表的な精神疾患 ⑥パーソナリティ障害 15. 代表的な精神疾患 ⑦精神遅滞・広汎性発達障害	16. 代表的な精神疾患 ⑧多動性障害・行動障害 17. 精神疾患の治療 ①精神科薬物療法 18. 精神疾患の治療 ②電気けいれん療法など 19. 精神疾患の治療 ③精神療法 20. 精神疾患の治療 ④精神科リハビリテーション 21. 精神疾患の治療 ⑤環境・社会療法 22. 疾病構造の変化 23. 外来診療・在宅診療 24. 入院療法 25. 医療観察法対象者の支援 26. 精神科治療と入院形態 27. 隔離、拘束のあり方 28. 移送制度による入院 29. 再発予防のための支援 30. 退院促進のための支援
1. 精神医学、医療の歴史と現状 2. 精神現象の生物学的基礎 3. こころの理解 4. 精神障害の概念 5. 精神疾患の成因と分類 6. 精神症状と状態像 7. 診断の手順と方法 8. 心理的検査と身体的検査 9. 代表的な精神疾患 ①器質性精神病 10. 代表的な精神疾患 ②精神作用物質による精神及び行動の障害 11. 代表的な精神疾患 ③統合失調症 12. 代表的な精神疾患 ④気分障害 13. 代表的な精神疾患 ⑤神経症障害 14. 代表的な精神疾患 ⑥パーソナリティ障害 15. 代表的な精神疾患 ⑦精神遅滞・広汎性発達障害	16. 代表的な精神疾患 ⑧多動性障害・行動障害 17. 精神疾患の治療 ①精神科薬物療法 18. 精神疾患の治療 ②電気けいれん療法など 19. 精神疾患の治療 ③精神療法 20. 精神疾患の治療 ④精神科リハビリテーション 21. 精神疾患の治療 ⑤環境・社会療法 22. 疾病構造の変化 23. 外来診療・在宅診療 24. 入院療法 25. 医療観察法対象者の支援 26. 精神科治療と入院形態 27. 隔離、拘束のあり方 28. 移送制度による入院 29. 再発予防のための支援 30. 退院促進のための支援			
[使用テキスト・参考文献] 「精神保健の課題と支援」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。			

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 精神保健の課題と支援	授業の種類 ( 講義・演習・実習 )	授業担当者 畠山 護三		
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 1年 前期・後期 必須		
[教員実務経験] 畠山 護三 福祉事務所, 保健所等実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得				
[授業の目的・ねらい] 1. 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 2. 現代社会における精神保健の諸問題について理解する。 3. 精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。 4. 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。 5. 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。  [授業全体の内容の概要] 現代社会の精神保健の課題について学ぶ。  [授業修了時の到達課題 (到達目標)] 精神保健の現状とストレス社会についての精神保健福祉の普及、啓発における支援方法を理解する。				
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px;">                             1. 精神の健康についての基本知識                              2. 精神保健の概要                              3. 精神保健の歴史                              4. 精神保健の課題                              5. 精神の健康とその要因                              6. ライフサイクルと精神の健康                              7. ストレスと精神の健康                              8. 生活習慣と精神の健康                              9. 精神保健に関する予防の概念と対象                              10. 現代日本の家族特徴                              11. 結婚生活と精神保健                              12. 育児をめぐる精神保健                              13. 社会的引きこもりをめぐる精神保健                              14. 家庭内の問題を相談する機関における精神保健福祉士の役割                              15. 現代日本の学校教育と生徒児童の特徴                         </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px;">                             16. 教員の精神保健                              17. 学校における精神保健福祉士の役割                              18. 現代日本の労働環境                              19. うつ病と過労自殺                              20. 飲酒やギャンブルなど依存に関する問題                              21. 職場における精神保健福祉士の役割                              22. 発達障害に対する対策                              23. アルコール・薬物依存対策                              24. うつ病と自殺病死対策                              25. 認知症高齢者に対する対策                              26. 災害・犯罪被害者の精神保健                              27. ニート・若年無業者と精神保健                              28. 性同一性障害と精神保健                              29. 地域精神保健に関する諸活動                              30. 諸外国の精神保健活動の現状および対策                         </td> </tr> </table>			1. 精神の健康についての基本知識 2. 精神保健の概要 3. 精神保健の歴史 4. 精神保健の課題 5. 精神の健康とその要因 6. ライフサイクルと精神の健康 7. ストレスと精神の健康 8. 生活習慣と精神の健康 9. 精神保健に関する予防の概念と対象 10. 現代日本の家族特徴 11. 結婚生活と精神保健 12. 育児をめぐる精神保健 13. 社会的引きこもりをめぐる精神保健 14. 家庭内の問題を相談する機関における精神保健福祉士の役割 15. 現代日本の学校教育と生徒児童の特徴	16. 教員の精神保健 17. 学校における精神保健福祉士の役割 18. 現代日本の労働環境 19. うつ病と過労自殺 20. 飲酒やギャンブルなど依存に関する問題 21. 職場における精神保健福祉士の役割 22. 発達障害に対する対策 23. アルコール・薬物依存対策 24. うつ病と自殺病死対策 25. 認知症高齢者に対する対策 26. 災害・犯罪被害者の精神保健 27. ニート・若年無業者と精神保健 28. 性同一性障害と精神保健 29. 地域精神保健に関する諸活動 30. 諸外国の精神保健活動の現状および対策
1. 精神の健康についての基本知識 2. 精神保健の概要 3. 精神保健の歴史 4. 精神保健の課題 5. 精神の健康とその要因 6. ライフサイクルと精神の健康 7. ストレスと精神の健康 8. 生活習慣と精神の健康 9. 精神保健に関する予防の概念と対象 10. 現代日本の家族特徴 11. 結婚生活と精神保健 12. 育児をめぐる精神保健 13. 社会的引きこもりをめぐる精神保健 14. 家庭内の問題を相談する機関における精神保健福祉士の役割 15. 現代日本の学校教育と生徒児童の特徴	16. 教員の精神保健 17. 学校における精神保健福祉士の役割 18. 現代日本の労働環境 19. うつ病と過労自殺 20. 飲酒やギャンブルなど依存に関する問題 21. 職場における精神保健福祉士の役割 22. 発達障害に対する対策 23. アルコール・薬物依存対策 24. うつ病と自殺病死対策 25. 認知症高齢者に対する対策 26. 災害・犯罪被害者の精神保健 27. ニート・若年無業者と精神保健 28. 性同一性障害と精神保健 29. 地域精神保健に関する諸活動 30. 諸外国の精神保健活動の現状および対策			
[使用テキスト・参考文献] 「精神保健の課題と支援」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。			

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 精神保健福祉相談援助の 基盤（基礎）	授業の種類 （ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・演習・実習 ）	授業担当者 米田 耕・今井 裕介・渡邊 美加 中濱 恵梨加
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年 前期 必須
[教員実務経験] 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり		
[授業の目的・ねらい] 1. 精神障害者を中心とした社会福祉サービスと援助活動について理解する。 2. 精神障害者を中心とした社会福祉援助活動の目的・価値等を具体的事例に基づいて理解する。 3. 社会福祉援助活動における専門的援助技術の体系について理解する。 4. 精神保健福祉士と専門的援助技術について理解させる。  [授業全体の内容の概要] 相談援助においての、目的、価値を学ぶ。  [授業修了時の到達課題（到達目標）] 相談援助技術においての、専門技術を体系的、理論的に理解する。		
[授業の日程と・各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 精神保健福祉士制度化の歩み 2. 精神保健福祉士の専門性 3. 社会福祉士の役割と意義 4. 相談援助の定義 5. 相談援助の意味 6. グローバルソーシャルワークの定義 7. ソーシャルワークの実践の包括・統合的な構造理解 8. ソーシャルワークの価値と理念 9. ウェルビーイング・社会正義・ソーシャルインクルージョン 10. ノーマライゼーション・人権擁護・権利擁護 11. エンパワメント 12. ソーシャルワークの源流 13. クライエントの主体性尊重 14. 日本におけるソーシャルワークの形成過程 15. 精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク		
[使用テキスト・参考文献] 「精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)」 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 授業時間の80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 精神保健福祉相談援助の 基盤(専門)	授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">講義</span> ・演習・実習 )	授業担当者 米田 耕・今井 裕介・渡邊 美加 中濱 恵梨加
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年 後期 必須
[教員実務経験] 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり		
[授業の日程と・各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 精神保健分野における相談援助活動の対象 2. 精神保健分野における相談援助活動の目的と意義 3. 専門職としての精神保健福祉士 4. ソーシャルワークにおける権利擁護 5. 日本における権利擁護実践の展開 6. 人権を擁護するソーシャルワーカーの役割 7. 精神障害者の権利擁護システム 8. 精神科医療システムにおける精神保健福祉士の位置づけ 9. 専門職倫理と相談援助活動における倫理的ジレンマ 10. ソーシャルワーク理論から見た総合的・包括的援助 11. コミュニティソーシャルワークの重要性 12. 総合的・包括的な援助と精神保健福祉の専門性 13. 総合的・包括的な援助の今後の展開と理論 14. 他職種連携・チームアプローチの意義と概要 15. 他職種連携における精神保健福祉士の役割		
[使用テキスト・参考文献] 「精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」 中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の80%以上の出席に対して、試験を実施し60点以上を合格とする。	



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 精神保健福祉の理論と 相談援助の展開	授業の種類 ( 講義・演習・実習 )	授業担当者 今井 裕介・米田 耕・畠山 京子 渡邊 美加・中濱 恵梨加		
授業の回数 60回	時間数 120時間	配当学年・時期 1年 前期・後期 必須		
【教員実務経験】 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり				
【授業の目的・ねらい】 1. 精神科リハビリテーションの概念、構成について理解する。2. 精神障害者地域移行支援と実態、包括的支援を理解する。3. 精神医療の特性について理解させる。4. 精神保健福祉士が行うリハビリテーション、社会資源の調整、開発について理解する。5. 相談援助の展開、地域を基盤にした連携について理解する。 【授業全体の内容の概要】 精神保健福祉の特性を理解し相談援助の理論体系を学ぶ。 【授業修了時の到達課題 (到達目標)】 精神保健福祉に求められる相談援助の理論を地域移行支援と関連づけて理解する。				
【授業の日程と各テーマ・内容・授業方法】				
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">                             1. わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向                              2. 諸外国の精神保健医療福祉制度                              3. 精神保健福祉士における活動の歴史                              4. 精神障害者支援の理念                              5. 精神保健医療福祉領域における支援対象                              6. 精神障害者の人権                              7. 精神科リハビリテーションの概念                              8. 精神科リハビリテーションの理念                              9. 精神科リハビリテーションの構成と展開                              10. 精神科リハビリテーションのプロセス                              11. 精神専門療法                              12. 集団精神療法                              13. 認知行動療法                              14. SST                              15. 家庭教育プログラム                              16. 精神科デイケア                              17. 医療機関のアウトリーチ                              18. 医療機関における他職種との協働・連携                              19. 精神障害者支援の実践モデル                              20. スtrenグスモデル・生活モデル                              21. 地域を基盤とした相談援助                              22. ケース発見                              23. 受理面接と契約                              24. 課題分析                              25. 支援計画                              26. 支援の実施と経過の観察                              27. 効果の測定と支援の評価                              28. 面接を効果的に行う方法                              29. 面接技法                              30. スーパービジョンの意義と機能                         </td> <td style="width: 50%; border: none;">                             31. スーパービジョンの形態と過程                              32. コンサルテーション                              33. 相談援助活動の内容と方法                              34. 個別支援の実際と事例分析                              35. 集団を活用した支援の実際と事例分析                              36. 事例による相談援助活動の検討                              37. 精神障害者と家族の関係                              38. 家族支援の方法                              39. 事例による家族調整・支援の検討                              40. 地域移行支援の対象                              41. 地域移行の体制                              42. 地域移行における精神保健福祉士の役割と多職種との連携                              43. 地域移行支援・地域定着支援の取り組み                              44. 地域移行にかかわる機関と組織                              45. 事例による地域移行                              46. 精神障害者を取り巻く社会的状況                              47. 地域相談援助の主体                              48. 地域相談援助の対象                              49. 地域相談援助の体制                              50. 地域を基盤としたリハビリテーション                              51. セルフヘルプグループ及び家族会                              52. ケアマネジメントの原則                              53. ケアマネジメントの意義と方法                              54. ケアマネジメントの展開過程                              55. 事例による精神障害者ケアマネジメント                              56. 地域を基盤にした支援                              57. 地域アセスメント                              58. 事例による地域を基盤にした支援の検討                              59. 精神保健福祉活動の意義と展開                              60. 事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討                         </td> </tr> </table>			1. わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向 2. 諸外国の精神保健医療福祉制度 3. 精神保健福祉士における活動の歴史 4. 精神障害者支援の理念 5. 精神保健医療福祉領域における支援対象 6. 精神障害者の人権 7. 精神科リハビリテーションの概念 8. 精神科リハビリテーションの理念 9. 精神科リハビリテーションの構成と展開 10. 精神科リハビリテーションのプロセス 11. 精神専門療法 12. 集団精神療法 13. 認知行動療法 14. SST 15. 家庭教育プログラム 16. 精神科デイケア 17. 医療機関のアウトリーチ 18. 医療機関における他職種との協働・連携 19. 精神障害者支援の実践モデル 20. スtrenグスモデル・生活モデル 21. 地域を基盤とした相談援助 22. ケース発見 23. 受理面接と契約 24. 課題分析 25. 支援計画 26. 支援の実施と経過の観察 27. 効果の測定と支援の評価 28. 面接を効果的に行う方法 29. 面接技法 30. スーパービジョンの意義と機能	31. スーパービジョンの形態と過程 32. コンサルテーション 33. 相談援助活動の内容と方法 34. 個別支援の実際と事例分析 35. 集団を活用した支援の実際と事例分析 36. 事例による相談援助活動の検討 37. 精神障害者と家族の関係 38. 家族支援の方法 39. 事例による家族調整・支援の検討 40. 地域移行支援の対象 41. 地域移行の体制 42. 地域移行における精神保健福祉士の役割と多職種との連携 43. 地域移行支援・地域定着支援の取り組み 44. 地域移行にかかわる機関と組織 45. 事例による地域移行 46. 精神障害者を取り巻く社会的状況 47. 地域相談援助の主体 48. 地域相談援助の対象 49. 地域相談援助の体制 50. 地域を基盤としたリハビリテーション 51. セルフヘルプグループ及び家族会 52. ケアマネジメントの原則 53. ケアマネジメントの意義と方法 54. ケアマネジメントの展開過程 55. 事例による精神障害者ケアマネジメント 56. 地域を基盤にした支援 57. 地域アセスメント 58. 事例による地域を基盤にした支援の検討 59. 精神保健福祉活動の意義と展開 60. 事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討
1. わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向 2. 諸外国の精神保健医療福祉制度 3. 精神保健福祉士における活動の歴史 4. 精神障害者支援の理念 5. 精神保健医療福祉領域における支援対象 6. 精神障害者の人権 7. 精神科リハビリテーションの概念 8. 精神科リハビリテーションの理念 9. 精神科リハビリテーションの構成と展開 10. 精神科リハビリテーションのプロセス 11. 精神専門療法 12. 集団精神療法 13. 認知行動療法 14. SST 15. 家庭教育プログラム 16. 精神科デイケア 17. 医療機関のアウトリーチ 18. 医療機関における他職種との協働・連携 19. 精神障害者支援の実践モデル 20. スtrenグスモデル・生活モデル 21. 地域を基盤とした相談援助 22. ケース発見 23. 受理面接と契約 24. 課題分析 25. 支援計画 26. 支援の実施と経過の観察 27. 効果の測定と支援の評価 28. 面接を効果的に行う方法 29. 面接技法 30. スーパービジョンの意義と機能	31. スーパービジョンの形態と過程 32. コンサルテーション 33. 相談援助活動の内容と方法 34. 個別支援の実際と事例分析 35. 集団を活用した支援の実際と事例分析 36. 事例による相談援助活動の検討 37. 精神障害者と家族の関係 38. 家族支援の方法 39. 事例による家族調整・支援の検討 40. 地域移行支援の対象 41. 地域移行の体制 42. 地域移行における精神保健福祉士の役割と多職種との連携 43. 地域移行支援・地域定着支援の取り組み 44. 地域移行にかかわる機関と組織 45. 事例による地域移行 46. 精神障害者を取り巻く社会的状況 47. 地域相談援助の主体 48. 地域相談援助の対象 49. 地域相談援助の体制 50. 地域を基盤としたリハビリテーション 51. セルフヘルプグループ及び家族会 52. ケアマネジメントの原則 53. ケアマネジメントの意義と方法 54. ケアマネジメントの展開過程 55. 事例による精神障害者ケアマネジメント 56. 地域を基盤にした支援 57. 地域アセスメント 58. 事例による地域を基盤にした支援の検討 59. 精神保健福祉活動の意義と展開 60. 事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討			
【使用テキスト・参考文献】 「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」 中央法規出版		【単位認定の方法及び基準】 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。		

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 精神保健福祉に関する 制度とサービス	授業の種類 （ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・演習・実習 ）	授業担当者 米田 耕・今井 裕介・岡田 妙子 渡邊 美加・中濱 恵梨加
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 1年 前期・後期 必須
[教員実務経験] 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり		
[授業の目的・ねらい] 1. 精神障害者の人権について理解する。 2. 精神保健福祉士の理念と意義を理解する。 3. 精神障害者に対する相談援助活動等を理解する。 4. 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解する。 5. 精神保健福祉施策の概要について理解する。  [授業全体の内容の概要] 精神保健福祉士の理念、意義、相談援助を法制度と関連づけて学ぶ。  [授業修了時の到達課題（到達目標）] 精神保健福祉士法、精神保健福祉法を理解する。		
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 精神障害者への相談援助活動 2. 精神保健福祉に関する制度とサービスの相互作用の理解 3. 精神病患者監護法から精神保健法 4. 精神保健法から精神保健福祉法 5. 障害者自立支援法から障害者総合支援法へ 6. 精神保健福祉法の構成 7. 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割 8. 障害者福祉施策をめぐる動き 9. 障害者基本法と精神障害者施策 10. 障害者総合支援法における福祉サービス 11. 精神障害者を対象とした福祉施策・事業 12. 精神障害者と社会保障 13. 医療保険制度 14. 介護保険制度 15. 経済的支援に関する制度 16. 相談援助にかかわる行政組織と民間組織 17. 福祉サービスの提供施設・機関の役割 18. インフォーマルな社会資源の役割 19. 刑事司法と更生保護 20. 司法・医療・福祉の連携と必要性 21. 医療観察法の意義と内容 22. 精神保健参与員の役割 23. 地域処遇 24. 社会復帰調整官の役割 25. 社会調査の意義と目的 26. 社会調査の対象 27. 社会調査における倫理 28. 量的調査法と質的調査法の違い 29. ICT の活用 30. 社会調査をもとに社会資源の調整・開発に結びつけた事例		
[使用テキスト・参考文献] 「精神保健福祉に関する制度とサービス」 中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 精神障害者の 生活支援システム	授業の種類 （ 講義・演習・実習 ）	授業担当者 岡田 妙子・今井 裕介・米田 耕 渡邊 美加・中濱 恵梨加
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年 後期 必須
[教員実務経験] 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり		
[授業の目的・ねらい] 1. 障害者福祉の理念と意義及び精神保健福祉法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解する。 2. 精神障害者の人権について理解する。 3. 精神障害者に対する相談援助活動等を理解する。 4. 精神保健福祉施策の概要について理解する。  [授業全体の内容の概要] 地域移行の中での地域生活援助のあり方を学ぶ。  [授業修了時の到達課題（到達目標）] 精神保健福祉士に求められる視点を理解し、精神障害者の地域生活の支援で大切なことを理解する。		
[授業の日程と・各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 障害の概念 2. 障害者基本法、精神保健福祉法における精神障害者 3. 精神障害者の特性 4. 精神障害者の現状 5. 精神障害者と家族・地域社会の現状 6. 海外における地域生活モデルの動向 7. 精神障害者の生活支援の理念と概念 8. 精神障害者の自立と社会参加のための生活支援システム 9. 精神障害者の居住支援 10. 居住の場の確保と精神保健福祉士の役割 11. 居住支援に関する専門職と役割 12. 精神障害者の雇用・就業支援制度の概要 13. 福祉的就労における支援の実際 14. 雇用・就業における近年の動向 15. 行政における精神保健福祉士の役割と機能		
[使用テキスト・参考文献] 「精神保健福祉に関する制度とサービス」 中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 精神保健福祉援助演習(基礎)	授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・実習 )	授業担当者 渡邊 美加・今井 裕介・米田 耕 中濱 恵梨加
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年 前期 必須
[教員実務経験] 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり		
[授業の目的・ねらい] 1. 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。 2. 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。  [授業全体の内容の概要] 学生自身の自己覚知を認識し、個人のスキル向上、専門職としての基礎を学ぶ。  [授業修了時の到達課題 (到達目標)] 集団療法、当事者支援を通じての各々のケースに応じた実践力を磨き、理解する。		
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 演習の意義と位置づけ 2. 自己理解と他者理解 3. 価値と倫理 4. 利用者理解 5. 援助関係の理解 6. コミュニケーション技術 7. 面接技術 8. スーパービジョンとコンサルテーション 9. バーンアウト 10. 記録の必要性とその方法 11. 記録の技術 12. 観察法 13. マッピング技法 14. チームアプローチの必要性と方法 15. ケアカンファレンス		
[使用テキスト・参考文献] 「精神保健福祉援助演習(基礎)」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 精神保健福祉援助演習(専門)	授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・実習 )	授業担当者 渡邊 美加・岡田 妙子・今井 裕介 米田 耕・中濱 恵梨加		
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 1年 前期・後期 必須		
<b>[教員実務経験]</b> 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり				
<b>[授業の目的・ねらい]</b> 1. 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。 2. 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。				
<b>[授業全体の内容の概要]</b> リハビリの技法や地域支援においてのアウトリーチ支援等のあり方等を学ぶ。				
<b>[授業修了時の到達課題 (到達目標)]</b> 援助事例を通じてリハビリ技法が学生の身となり、しいては相談者の生活の向上となる支援は何かと理解する。				
<b>[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法]</b>				
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding-right: 20px;">                             1. インテーク                              2. アセスメント                              3. プランニング                              4. 支援の実施 (介入) ・モニタリング (経過観察)                              5. 評価と終結                              6. 多職種との連携                              7. グループワークの必要性とその理解                              8. グループワークの展開 ①準備期                              9. グループワークの展開 ②開始期                              10. グループワークの展開 ③作業期                              11. グループワークの展開 ④終結期                              12. ニーズ把握 ①社会調査                              13. ニーズ把握 ②コミュニティ・アウトリーチ                              14. コミュニティアセスメント                              15. 計画策定                              16. 社会資源の活用                              17. 社会資源の開拓                              18. ネットワーキング                              19. ソーシャルアクション                         </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                             20. 実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解                                  ①ストレングスマデル                              21. 実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解                                  ②SST・心理教育・集団精神療法                              22. 実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解                                  ③危機介入・アウトリーチ                              23. 実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解                                  ④チームアプローチ・ケアマネジメント                              24. 支援課題別の相談援助の理解                                  ①自殺予防・児童虐待防止                              25. 支援課題別相談援助の理解                                  ②社会復帰・権利擁護・就労支援                              26. 支援課題別相談援助の理解                                  ③地域組織化・経済的支援・当事者支援                              27. 支援課題別相談援助の理解                                  ④家族支援                              28. ライフサイクルを考慮した対象者別の相談援助の理解                                  ①発達障害児・者の支援、不登校の子どもの支援                              29. ライフサイクルを考慮した対象者別の相談援助の理解                                  ②性同一性障害のある若者・薬物依存症の若者の支援                              30. パーソナリティ障害のある若者・ひきこもりの若者の支援                         </td> </tr> </table>			1. インテーク 2. アセスメント 3. プランニング 4. 支援の実施 (介入) ・モニタリング (経過観察) 5. 評価と終結 6. 多職種との連携 7. グループワークの必要性とその理解 8. グループワークの展開 ①準備期 9. グループワークの展開 ②開始期 10. グループワークの展開 ③作業期 11. グループワークの展開 ④終結期 12. ニーズ把握 ①社会調査 13. ニーズ把握 ②コミュニティ・アウトリーチ 14. コミュニティアセスメント 15. 計画策定 16. 社会資源の活用 17. 社会資源の開拓 18. ネットワーキング 19. ソーシャルアクション	20. 実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解 ①ストレングスマデル 21. 実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解 ②SST・心理教育・集団精神療法 22. 実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解 ③危機介入・アウトリーチ 23. 実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解 ④チームアプローチ・ケアマネジメント 24. 支援課題別の相談援助の理解 ①自殺予防・児童虐待防止 25. 支援課題別相談援助の理解 ②社会復帰・権利擁護・就労支援 26. 支援課題別相談援助の理解 ③地域組織化・経済的支援・当事者支援 27. 支援課題別相談援助の理解 ④家族支援 28. ライフサイクルを考慮した対象者別の相談援助の理解 ①発達障害児・者の支援、不登校の子どもの支援 29. ライフサイクルを考慮した対象者別の相談援助の理解 ②性同一性障害のある若者・薬物依存症の若者の支援 30. パーソナリティ障害のある若者・ひきこもりの若者の支援
1. インテーク 2. アセスメント 3. プランニング 4. 支援の実施 (介入) ・モニタリング (経過観察) 5. 評価と終結 6. 多職種との連携 7. グループワークの必要性とその理解 8. グループワークの展開 ①準備期 9. グループワークの展開 ②開始期 10. グループワークの展開 ③作業期 11. グループワークの展開 ④終結期 12. ニーズ把握 ①社会調査 13. ニーズ把握 ②コミュニティ・アウトリーチ 14. コミュニティアセスメント 15. 計画策定 16. 社会資源の活用 17. 社会資源の開拓 18. ネットワーキング 19. ソーシャルアクション	20. 実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解 ①ストレングスマデル 21. 実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解 ②SST・心理教育・集団精神療法 22. 実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解 ③危機介入・アウトリーチ 23. 実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解 ④チームアプローチ・ケアマネジメント 24. 支援課題別の相談援助の理解 ①自殺予防・児童虐待防止 25. 支援課題別相談援助の理解 ②社会復帰・権利擁護・就労支援 26. 支援課題別相談援助の理解 ③地域組織化・経済的支援・当事者支援 27. 支援課題別相談援助の理解 ④家族支援 28. ライフサイクルを考慮した対象者別の相談援助の理解 ①発達障害児・者の支援、不登校の子どもの支援 29. ライフサイクルを考慮した対象者別の相談援助の理解 ②性同一性障害のある若者・薬物依存症の若者の支援 30. パーソナリティ障害のある若者・ひきこもりの若者の支援			
<b>[使用テキスト・参考文献]</b> 「精神保健福祉援助演習(専門)」中央法規出版	<b>[単位認定の方法及び基準]</b> 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。			

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 精神保健福祉援助実習指導	授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・演習・実習 )	実習巡回指導員 米田 耕・今井 裕介・渡邊 美加 中濱 恵梨加		
授業の回数 4 5回	時間数 9 0時間	配当学年・時期 1年 前期・後期 必須		
[教員実務経験] 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり				
[授業の目的・ねらい] 1. 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を理解する。 2. 精神保健福祉士として必要な知識及び技術を学び、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術の知識を習得する。 3. 職業倫理を身につけ、専門職として自覚に基づいた行動を理解する。 4. 具体的な体験や個別・集団の援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5. 関連分野の専門職種と機関・事業所・団体・地域社会等連携のあり方を理解する。				
[授業全体の内容の概要] 精神保健福祉援助実習に向けての幅広い視点、知識、技術を養う。				
[授業修了時の到達課題 (到達目標)] 支援する上での、個人のプライバシー、人権の尊重をも学び必要な資質、能力、技術の体得を目指す。				
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法]				
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                             1. 精神保健福祉援助実習の意義と目的                              2. 実習の位置づけ                              3. 実習における学習課題                              4. 精神保健福祉援助実習の構造                              5. 実習を構成する用語の整理                              6. 実習の流れ                              7. 各段階における学習課題                              8. 専門職養成としての実習                              9. 実習の留意点                              10. 実習生の立場性                              11. 精神保健医療福祉の現状                              12. 精神保健福祉の課題と障害者施策                              13. 精神保健福祉援助実習の施設・機関① (精神科医療機関)                              14. 精神保健福祉援助実習の施設・機関② (障害福祉サービス事業所・行政機関)                              15. 事前学習の目的・内容・方法                              16. 現場体験学習・見学実習                              17. 実習先の選定                              18. 実習計画の意義と作成                              19. 実習契約と関係書類の準備                              20. 事前訪問                              21. 事前訪問後のまとめ                              22. 実習に向けての心構え ①(体調の管理・必要書類の作成と保管)                              23. 実習に向けての心構え ② (職業倫理の遵守と法的責任)                         </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                             24. 実習に向けての心構え ③ (職場のルール・保険の加入)                              25. 精神保健福祉援助の理解と実習における実践                              26. 精神保健福祉援助における記録の意義                              27. 実習記録                              28. 実習におけるスーパービジョン                              29. 実習指導者におけるスーパービジョン                              30. 巡回指導時のスーパービジョン                              31. 帰校指導時のスーパービジョン                              32. 実習生自身についての悩み                              33. 実習指導者や実習担当教員との間で抱える悩み                              34. 患者との間で抱える悩み                              35. 実習中のアクシデントへの対応                              36. 配属実習の流れ                              37. 精神科医療機関                              38. 障害福祉サービス事業所                              39. 事後学習の必要性                              40. 実習での体験の振り返りとスーパービジョン                              41. 事後学習におけるスーパービジョンの受け方                              42. 自己評価と実習指導者による評価                              43. 実習総括レポート                              44. 実習報告会 ①                              45. 実習報告会 ②                         </td> </tr> </table>			1. 精神保健福祉援助実習の意義と目的 2. 実習の位置づけ 3. 実習における学習課題 4. 精神保健福祉援助実習の構造 5. 実習を構成する用語の整理 6. 実習の流れ 7. 各段階における学習課題 8. 専門職養成としての実習 9. 実習の留意点 10. 実習生の立場性 11. 精神保健医療福祉の現状 12. 精神保健福祉の課題と障害者施策 13. 精神保健福祉援助実習の施設・機関① (精神科医療機関) 14. 精神保健福祉援助実習の施設・機関② (障害福祉サービス事業所・行政機関) 15. 事前学習の目的・内容・方法 16. 現場体験学習・見学実習 17. 実習先の選定 18. 実習計画の意義と作成 19. 実習契約と関係書類の準備 20. 事前訪問 21. 事前訪問後のまとめ 22. 実習に向けての心構え ①(体調の管理・必要書類の作成と保管) 23. 実習に向けての心構え ② (職業倫理の遵守と法的責任)	24. 実習に向けての心構え ③ (職場のルール・保険の加入) 25. 精神保健福祉援助の理解と実習における実践 26. 精神保健福祉援助における記録の意義 27. 実習記録 28. 実習におけるスーパービジョン 29. 実習指導者におけるスーパービジョン 30. 巡回指導時のスーパービジョン 31. 帰校指導時のスーパービジョン 32. 実習生自身についての悩み 33. 実習指導者や実習担当教員との間で抱える悩み 34. 患者との間で抱える悩み 35. 実習中のアクシデントへの対応 36. 配属実習の流れ 37. 精神科医療機関 38. 障害福祉サービス事業所 39. 事後学習の必要性 40. 実習での体験の振り返りとスーパービジョン 41. 事後学習におけるスーパービジョンの受け方 42. 自己評価と実習指導者による評価 43. 実習総括レポート 44. 実習報告会 ① 45. 実習報告会 ②
1. 精神保健福祉援助実習の意義と目的 2. 実習の位置づけ 3. 実習における学習課題 4. 精神保健福祉援助実習の構造 5. 実習を構成する用語の整理 6. 実習の流れ 7. 各段階における学習課題 8. 専門職養成としての実習 9. 実習の留意点 10. 実習生の立場性 11. 精神保健医療福祉の現状 12. 精神保健福祉の課題と障害者施策 13. 精神保健福祉援助実習の施設・機関① (精神科医療機関) 14. 精神保健福祉援助実習の施設・機関② (障害福祉サービス事業所・行政機関) 15. 事前学習の目的・内容・方法 16. 現場体験学習・見学実習 17. 実習先の選定 18. 実習計画の意義と作成 19. 実習契約と関係書類の準備 20. 事前訪問 21. 事前訪問後のまとめ 22. 実習に向けての心構え ①(体調の管理・必要書類の作成と保管) 23. 実習に向けての心構え ② (職業倫理の遵守と法的責任)	24. 実習に向けての心構え ③ (職場のルール・保険の加入) 25. 精神保健福祉援助の理解と実習における実践 26. 精神保健福祉援助における記録の意義 27. 実習記録 28. 実習におけるスーパービジョン 29. 実習指導者におけるスーパービジョン 30. 巡回指導時のスーパービジョン 31. 帰校指導時のスーパービジョン 32. 実習生自身についての悩み 33. 実習指導者や実習担当教員との間で抱える悩み 34. 患者との間で抱える悩み 35. 実習中のアクシデントへの対応 36. 配属実習の流れ 37. 精神科医療機関 38. 障害福祉サービス事業所 39. 事後学習の必要性 40. 実習での体験の振り返りとスーパービジョン 41. 事後学習におけるスーパービジョンの受け方 42. 自己評価と実習指導者による評価 43. 実習総括レポート 44. 実習報告会 ① 45. 実習報告会 ②			
[使用テキスト・参考文献] 「精神保健福祉援助実習」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。		

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 精神保健福祉援助実習	授業の種類 ( 講義・演習・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )	実習 今井 裕介・米田 耕・渡邊 美加 中濱 恵梨加
授業の回数 ー	時間数 210時間	配当学年・時期 1年 前期・後期 必須
[教員実務経験] 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり		
[授業の目的・ねらい] 1. 配属実習を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。 2. 精神保健福祉士として必要な知識および技術を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術の実践を理解し習得する。 3. 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。 4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5. 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。  [授業全体の内容の概要] 精神障害者への理解を深め、相談援助における精神保健福祉士の役割を理解し、その実践へとつなげる。 [授業修了時の到達課題 (到達目標)] 具体的な体験を通じた成果や課題から、精神保健福祉士の職業を概念化し理論化し体系だてて理解する。		
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 精神科病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助実習には、精神障害者のプライバシーに十分配慮しつつ、下記の内容を必ず含めることとする。 1. 実習オリエンテーション 2. 配属実習 3. 全体総括		
[使用テキスト・参考文献] 「精神保健福祉援助実習」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 所定時間数の出席をもって単位認定を行う。	

## 授業概要

授業のタイトル (科目名) H. R. 活動	授業の種類 (講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">演習</span> ・実習)	授業担当者 今井 裕介・米田 耕・栗原 奨
授業の回数 5回	時間数 10時間	配当学年・時期 1年 前期 後期
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>対人的・集団的な活動は、社会において人間関係を構築していくうえで必要なことである。HR活動を通して、学生相互の関りや教員との信頼関係を深め、学修意欲、就職への意欲につなげていく。また、クラスとして目標を明確にし、PDCA (※) サイクルを確立し、常に向上心を持ち、有意義な学生生活を送れるよう指導していく。</p> <p>※Plan (計画) Do (実施・実行) Check (点検・評価) Act (処置・改善)</p> <p>[授業全体の内容の概要] 学生生活を有意義に送れるよう、学生や教職員との信頼関係を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学生生活における基本的知識を理解する。</li> <li>○学内ルール等を理解し、有意義な学校生活を実現する。</li> <li>○クラス運営を通じ、組織での自分の在り方を学ぶ。</li> </ul>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新年度オリエンテーション (対面式)</li> <li>2. 新年度オリエンテーション (個人写真撮影・健康診断)</li> <li>3. クラス運営, 学生の役割分担等の理解</li> <li>4. 精神保健福祉士会入会説明・精神保健福祉士登録申請説明会</li> <li>5. 卒業式前日指導</li> </ol>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>特になし</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>80%以上出席の者に対し、授業態度、小テスト(レポートを含む)で総合的に評価する。</p>



## 授業概要

授業のタイトル（科目名） 国家試験対策	授業の種類 （ 講義・ <b>演習</b> ・実習）	授業担当者 今井 裕介・米田 耕・栗原 奨 島山 護三
授業の回数 20回	時間数 40時間	配当学年・時期 1年 前期 後期
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「問題演習」等を行い試験に対する意欲を高める。個人成績を把握し、その結果に基づく個別指導を行う。結果は科目、問題ごとに分析し、苦手分野に関しては教科担当が、「対策授業」を行う。精神保健福祉士として相応しい知識の修得を目的とした授業内容である。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>国家試験に対し、合格基準に達する実力を養う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>○試験に対する意欲を高めることができる。 ○精神保健福祉士として相応しい知識の修得ができる。 ○国家試験に対して自ら学び理解する力を養う。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1. オリエンテーション 2. 問題演習一問一答・対策授業 3. 問題演習一問一答・対策授業 4. 問題演習一問一答・対策授業 5. 問題演習一問一答・対策授業 6. 模擬試験 7. 模擬試験 8. 模擬試験 9. 模擬試験業 10. 問題演習 11. 問題演習 12. 問題演習 13. 問題演習 14. 問題演習 15. 問題演習・対策授業 16. 問題演習・対策授業</p>		<p>17. 問題演習・対策授業 18. 問題演習・対策授業 19. 問題演習・対策授業 20. 問題演習・対策授業</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>特になし</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>80%以上出席の者に対し、授業態度、小テスト(レポートを含む)で総合的に評価する。</p>

授業のタイトル (科目名) 進路演習	授業の種類 ( 講義・演習・実習)	授業担当者 全教職員
授業の回数 8回	時間数 16時間	配当学年・時期 1年 前期 後期
<p>[授業目的・ねらい]</p> <p>自分の適性や能力，関心などに気づき，自己理解を深めるとともに，福祉（精神保健福祉）の仕事について理解することにより，その中から自身に合った職場を主体的に選択できるようにする。自身の人生設計を明確にし，そのために必要な知識・資格の習得や仕事の選択を行うなど，自身が希望する進路を実現していくための授業を展開していく。</p> <p>[授業修了時の到達課題（到達目標）]</p> <p>○就職に向けての準備を進めることができる。 ○自身の適正に気づき適正にあった企業の選択ができる。 ○働き始めてからも長続きできるような就職ができる。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（専門学校で何を学ぶのか）</li> <li>2. 就職活動の勧め方</li> <li>3. 進路希望調査～進路指導の手順</li> <li>4. 履歴書・自己紹介書の書き方</li> <li>5. 面接試験対策</li> <li>6. 社会人としてのルールとマナー</li> <li>7. 自己分析～社会人基礎力・性格～</li> <li>8. 自己PR～強み・スピーチ～</li> </ol>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>資料配布</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>80%以上出席の者に対し，授業態度，小テスト(レポートを含む)で総合的に評価する。</p>	